生物界の探求に影響した教師の言葉

実重重実
松江北高　1975年卒、26期
全国山村振興連盟常務理事
(2026 年5月近況報告)

この度、「脳と心はどこから来たか ―主体的な認識の進化を探る航海へ」(3400円+税)を出版しました。「生物に世界はどう見えるか」、「感覚が生物を進化させた」、「細胞はどう身体を作ったか」に続く新曜社からの4作目です。

専門用語を極力使わず、「中学生だった自分が読んだら面白がるように」というつもりで書いたので、豊島岡学園女子中学と実践女子学園中学で、国語の入試問題に文章を使っていただき、嬉しく思いました。大学では、関西大学、同志社女子大学、東京海洋大学の入試問題で使っていただいています。

私は発生学者・故・団まりな先生に師事してきましたが、実はずっと昔、島根県時代に2人の教師から言われた言葉が大きな人生の転機となっています。

1つ目は、小学5年の春、担任だった細田栄延先生の言葉です。顕微鏡で池の微生物を見て驚嘆し、レポートを提出したところ、皆の前で「実重はすごい。中学生みたいによく調べている」と誉められました。それが励みとなり、その後の自分の基盤を作りました。でも私はその頃、大学生並みの専門書を読んでいたので、「大学生みたいに調べている」と言って欲しかったのでした。

また、松江北高生のとき、倫理社会担当だった出口穣教頭のところに行って、「存在の探求はどこから切り崩していったらよいか」と質問しました。先生は「最先端の自然科学を知って、その上で考究しなさい」と言われました。

これらの言葉を頂いてから50～60年の歳月が経ち、私はずっとこれらの言葉を胸に生物界の探求を続けてきました。しかし、両先生にお目にかかったことはなく、お礼の言葉を述べたこともありません。

教育とは、非条理なものだと思います。自分が教えたことや言った言葉が生徒に与えた真の影響を知ることはほとんどないでしょうし、まして何十年も経ってどのような形になっているかなど知る由もないでしょう。

他にもたくさんの影響を受けた先生がおられます。これらの先生方に感謝しながら、これからも探求を続けていきたいと思います。